

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援リフト		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	昨年と同様ですが全職員がこどもの行動心理を理解し、愛情と受容を持って接してくれるので不安が強いお子さんでも安心感を得られ過ぎやすいです。	支援者も本気で遊びに参加し、悔しいがる姿やそこからの切り替えやコミュニケーションをに自然と触れる機会を作っています。事業所側が提示することだけに取り組むのではなく、こども達の意見や要望を聞き、支援内容に取り入れています。	様々なルールや取り組み方を用意し、利用者に今必要な支援をピンポイントで提供できるようにしていくよう検討します。
2	室内でも体を動かせる広さがあるため、こども達が好きな運動系の遊びを展開しやすいです。そのため能動的に活動に参加しています。	ダイナミックな遊びができる反面、ケガのリスクもあるため、環境調整には注意を払っている。	遊びの幅を広げるために様々な用具を導入していく。
3	物事の捉え方や向き合い方をしっかりと子供に伝えられる。	あえて上手くいかない場面やネガティブな感情を持つ機会を作り、それに対してどのように気持ちを切り替えてポジティブな行動に繋げるかを大切にしています。	一人へのアプローチが他者へのアプローチにも繋がっていることをより実感しているので、継続していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流を創出する余地がある:保護者様のニーズに応じた交流機会を設けることで、家庭間の支援力向上につながる可能性があります。	どのような形で開催することが良いのか定まっておらず、後回しになっている。	親子レクリエーションのように参加しやすい内容からスタートしていこうと考えています。
2	お子さんの様子を直接見る機会が少ない。	気軽に見学希望を伝えらる関係性や定期的なアナウンスが不足していると思います。	定期的に見学会を実施して参加しやすい環境を作る。
3	通所時の様子の共有が不十分な面がある。	連絡帳アプリで写真の共有等は行っているが、モニタリング以外でも情報共有できる時間があるとより良いのかもしれないです。	2~3ヶ月に1度面談できる機会を作りたいです。